

財団法人 有機質資源再生センター 平成21年度 事業報告書

1. 庶務事項

- 1) 「平成20年度事業報告書並びに決算報告書」を寄付行為第12条に基づき、平成21年5月22日に農林水産大臣に提出した。
- 2) 理事選任による「登記の変更に伴う届出書」を「農林水産大臣所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則」第5条に基づき、平成21年12月8日に農林水産大臣に提出した。
- 3) 「平成22年度事業計画書並びに収支予算書」を寄付行為第11条に基づき、平成22年3月25日に提出した。

2. 会員数の状況

平成21年度末（平成22年3月31日）現在の会員数は以下の通りである。

1) 賛助会員（カッコ内は昨年度末会員数）

民間団体会員	79社（72社）
公共団体会員	1社（1社）
個人会員	21名（14名）

2) 特別賛助会員（同上）

10社（10社）

合計 111会員（97会員）

3. 会務の会合

平成21年度の各種会合開催状況は次の通りである。

（会合名）

- ①理事会 平成21年5月13日、平成21年9月16日
平成22年1月26日、平成22年3月3日
- ②評議員会 平成21年5月13日、平成22年3月3日
- ③常務理事会 平成21年4月14日、平成21年6月17日
平成21年7月15日、平成21年8月19日
平成21年10月21日、平成21年11月18日
平成21年12月16日、平成22年2月17日
- ④年次総会 平成21年5月13日
- ⑤賀詞交歓会 平成22年1月26日

* 寄付行為の定めにあるのは上記①、②のみ。

4. 組織体制の状況

理事14名（事務局長含む）、監事2名、評議員15名、事務局3名（常勤2名）

5. 事業活動

5-1. 公募事業の受託

①農林水産省補助事業

- 1) 名称等：「平成21年度食品産業競争力強化対策事業 食品循環資源経済的処理システム実証事業」を総事業費13,650千円(1/2補助)で受託した。
- 2) 事業の目的：現状、リサイクル目標に対する進捗については、食品製造業の単品多量排出者に比べて、卸売業、小売業、外食産業等の多品種少量排出者は遅れている。これは、物流効率の悪さに起因する経済性の問題が大きいと考える。それを踏えた上で、効率的な静脈物流体制についての実証、評価を行う。
- 3) 実施内容：食品スーパーマーケットで発生する食品循環資源を集積場に輸送する際に、GIS（地理情報システム）を活用し、輸送上の制約条件（稼働可能時間、移動可能距離、輸送コスト、積載可能量等）を考慮し、輸送効率が高い集積場の配置や収集ルートシュミレーション計算を行い、物流コスト最小化を実現するために必要なシステムについて、具体的な手法の開発等、報告書にまとめた。

②NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）委託事業

- 1) 名称等：「平成21年度新エネルギーベンチャー技術革新事業（ハイマ部門）」を総事業費10,000千円（全額）で受託した。
- 2) テーマ：「有機質資源を効率よく燃料ガスに転換する小型で運転容易な熱分解ガス化装置の開発」
- 3) 事業の目的：有機質資源の排出事業者が廃棄物を電気等のエネルギーに換えて自ら利用することによってエネルギーコストを削減すると共に温暖化ガスを削減する。
- 4) 事業の背景、及び内容：食品循環資源等の有機質資源は少量分散的に発生するが、その処理は大規模集中的に行われている場合が多い。そのために、多額の設備投資（処理費にも反映）、運搬コスト、二酸化炭素排出等が問題になる。小規模発生者は、コストが安い単純焼却施設を選択しがちになり、リサイクル率が向上しない一因である。当事業で開発する装置は、「小型」「高性能」「高効率」「安全」を目指し、廃棄物発生場所、或いはその近くで処理、再生利用することによりリサイクル率を向上させ、低炭素社会、循環型社会構築に貢献していく。平成21年度はフェーズ1という位置づけで、実験装置でガス化効率等の性能把握の実証、及び実験プラント設計等を行った。来年度は審査会を経て採択の可否が決まる。フェーズ2は小型実証プラントで実証する。

5-2. 啓発事業

食品リサイクルループ普及促進、及び循環型社会構築に向けた知識・情報・技術等を伝播、普及させるため、以下の取組みを行った。

No	実施内容	実施日	場所	内容・テーマ・講師	参加
1	第1回セミナー開催 (後援：農林水産省、環境省、商人舎、エコストア研究会 協賛：産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門)	2009/ 7/2	産業技術総合研究所 臨海副都心センター (東京都江東区)	今日からは「もったいない」をもっと身近に！「食品廃棄物発生抑制と再生利活用」 ①東京農業大学 国際食糧情報学部 牛久保明邦 教授 ②ユニー(株) 環境社会貢献部 百瀬則子 部長 ③伊藤忠食品(株) プロジェクト開発部 佐藤晃一 部長	90名
2	第2回シンポジウム開催(後援：農林水産省、環境省、経済産業省、日本スーパーマーケット協会、日本チェーンストア協会、セルコチェーン、商人舎 協賛：産業技術総合研究所エネルギー技術研究部門)	2009/ 12/2	日本工業倶楽部 (東京都千代田区)	「有機質資源の利活用多様化がもたらすもの」 ①東京工業大学大学院 統合研究院 柏木孝夫 教授 ②小田急フードエコロジーセンター 高橋巧一 顧問 ③早稲田大学理工学術院 基幹理工学部 河合素直学部長 (財)電力中央研究所 社会経済研究所 山本博巳上席研究員、ユニー(株)環境社会貢献部 百瀬則子 部長、(株)オストランド 八太昭道社長	137名
3	登録再生利用事業者制度説明会・食品リサイクルループ形成促進セミナー(主催：環境省 廃棄物・リサイクル対策部 リサイクル推進室)での講演	2010/ 2月	札幌、東京、名古屋、京都	食品リサイクルループ普及促進のため登録再生利用事業者等の事業者を対象にリサイクルループの取組み事例報告 高橋巧一主任研究員、ユニー(株) 百瀬則子部長(評議員)、中川武史事務局長	30名 ～ 50名

5-3. 会員への支援活動

(株) エコスの食品リサイクルループ環境大臣賞申請に際し支援を行い、同大臣賞(奨励賞)受賞につながった。
今後も積極的に会員への支援に取り組んでいく。

以上

前述のとおり報告いたします。

2010年5月12日
財団法人 有機質資源再生センター
理事 事務局長 中川 武史